令和７年度 国立中央青少年交流の家 教育事業
「生活・自立支援キャンプ」

# 富士のさと みんなでほっこりキャンプ

令和８年１月３１日（土）～２月１日（日） １泊２日

## １.趣旨

異年齢の子どもたちと関わることで、年齢の差による相互扶助の精神を高めるとともに、日常とは異なる活動を通し、親子の絆を深めてもらう機会とする。 また、規則正しい生活を通して生活リズムの向上を図り、集団生活を通して規律を守る良心を養う一助とする。「ひとり親」という、同じ境遇の親同士で悩みを共有し、子育てへの前向きな気持ちを高めるとともに、リフレッシュするという「非日常」を感じるきっかけとする。

## 2.参加者

ひとり親家庭の子どもとその保護者（29 家族 74 名）

## 3.会場

国立中央青少年交流の家

## 4.事業内容

| １月３１日(土) | |
|---|---|
| 13:15 | 受付 |
| 13:30～14:00 | はじまりの会 |
| 14:10～14:40 | アイスブレイク |
| 14:50～16:00 | お楽しみ会(子ども)①/交流会(保護者)① |
| 16:30～18:50 | 餅つき大会 |
| 19:00～20:15 | お好み体験プログラム |
| 19:00～21:30 | 大浴場開放 |
| 22:00 | 就寝 |

| ２月１日(日) | |
|---|---|
| 7:00 | 起床 |
| 7:40～7:50 | 朝のつどい |
| 8:00～8:50 | 朝食(レストラン) |
| 9:00～9:30 | 掃除・点検 |
| 10:00～12:30 | お楽しみ会(子ども)②/交流会(保護者)② |
| 12:40～14:00 | ほっとランチパーティー |
| 14:15～14:30 | おわりの会 |
| 14:30 | 解散 |

**【事業１日目】１月３１日（土）**

（１） **はじまりの会（アイスブレイク）**

企画から運営まで、すべてボランティアが中心となって行った。参加者のことを思いながら工夫を重ね、温かい雰囲気の中で実施することができた。当日は、親子で協力して取り組むレクリエーションや、参加者全体で力を合わせて行う活動などを行った。互いに声を掛け合いながら取り組む姿が多く見られ、自然と笑顔が広がっていた。

（２） **餅つき大会**

「餅つき」は、もち米の状態から餅へと変化していく一連の工程を見て・触れて・体験することで、食べ物ができあがるまでの過程を理解するとともに、伝統文化への関心を深める機会となった。親子で力を合わせて取り組む姿が多く見られ、達成感や喜びを共有する時間となり、家族の絆を深めることができた。

（３）　**お好み体験プログラム**

参加者が「焚き火・牛乳パックランタン作り・ナイトハイク」の3つの中から事前に選んだプログラムを行った。焚き火では、薪割りから火をつけるところまでを親子で行い、火を囲みながら家族の時間を過ごした。最後にマシュマロを焼き、ビスケットと一緒に食べ、一日の疲れを癒した。牛乳パックランタンでは、牛乳パックを自分の好みのデザインに仕上げ、最後に全員で点灯式を行った。ナイトハイクでは、暗い森を活用し、蛍光塗料とブラックライト、松を使用した家族で協力し合うミッションを行った。

**【事業2日目】2 月 1 日（日）**

（1）　**お菓子作り(子ども)・ほっとランチパーティー**

子どもたちだけで、簡単なデザート作りを行った。昼食の際に家族で食べることができるよう、一つひとつ心をこめて作る姿を見ることができた。また、保護者に向けてメッセージも書いた。ほっとランチパーティーでは、親子でカレー作りをした。子どもが積極的に野菜を切ったり、ご飯をよそったりする姿が見られた。この体験を、家庭でのお手伝いに繋げてほしい。最後にお菓子とメッセージを保護者に手渡した。

（2）　**フォトフレーム作り(保護者)**

保護者が子どもから離れて、フォトフレーム作りを行った。同じ境遇の親同士、子育ての悩み等を話しながら和やかな雰囲気の中で楽しく製作する姿を見ることができた。完成したフォトフレームに、餅つきの際に撮影した家族写真を入れ、子どもに向けて書いたメッセージカードと一緒に、ほっとランチパーティーの際に手渡した。

## 5.参加者の声（事後アンケートより） ※原文のとおり

（1）　**子ども**

・たきび・まきわりでマシュマロを食べたりして楽しかった。
・カレーライス・サプライズ・アイスブレイクが楽しかった。
・もちつきがたのしかった。
・食はだいじだと思った。
・富士山がきれいでかんどうした。
・親がつくったフォトスタンドが嬉しかった。
・ナイトハイクのクイズがたのしかった。
・人参を切ったのが楽しかった。

（2）　**保護者**

・日頃、ずっと子どもたちのことを気にしているので離れて過ごす時間が貴重だった。
・お菓子のサプライズに感動した。子どもの自信にもなるし、親として成長を感じることもできた。
・普段の生活時間から、最初はナイトプログラムには参加しないつもりでしたが、子どもが「友達と一緒にやりたい」と強い希望があり、参加した。最後までしっかりできて少し大人になったと感じた。
・子どもが作ったお菓子とメッセージのサプライズが嬉しかった
・初めての参加だったが、親子で楽しく過ごすことができた。
・子ども同士、親同士の交流の場があって良かった。

## 6.成果と課題

### （1）　アンケート結果

**【プログラム満足度　子ども】**

| | |
|---|---|
| アイスブレイク(法人ボランティア企画) | 95% |
| お楽しみ会(法人ボランティア企画) | 88% |
| 餅つき | 94% |
| お好み体験プログラム | 96% |
| お菓子作り | 96% |
| ほっとランチパーティー | 92% |

**【プログラム満足度　保護者】**

| | |
|---|---|
| アイスブレイク(法人ボランティア企画) | 97% |
| 交流会 | 96% |
| 餅つき | 95% |
| お好み体験プログラム | 94% |
| フォトフレーム作り | 95% |
| ほっとランチパーティー | 94% |

### （2）　成果

**・参加者の増加・対象年齢の拡大について**

⇒今年度より広報先に「東京都ひとり親家庭福祉協議会」を加えたことで、東京都在住の家庭にも広く情報を届けることができた。昨年度より定員も大幅に増員した。また、昨年度まではプログラムの都合上、小学生以上の子どものみの家庭を対象としていたが、今年度から幼児も参加者対象に含めた。保護者からは、「兄弟で参加できて嬉しい」「子どもを見てもらえたことで、自分の時間をもつことができた」といった声が寄せられ、事業の充実につながった。

**・規則正しい生活習慣について**

⇒幼児の参加があったことから、夜間に実施した「お好み体験プログラム」を自由参加とし、対象年齢に応じた無理のない生活リズムで過ごせるよう構成した。また、朝の起床時間を遅めにすることで、朝の時間にゆとりが生まれ、子どもたちが自ら支度をしたり、清掃に取り組んだりする姿が見られた。保護者の事前アンケートでは、「規則正しい生活を送っていますか？」という質問に対し、「はい」と回答した家庭は、44%であった。本事業をきっかけに、各家庭において規則正しい生活習慣を改めて意識する機会となることを期待したい。

**・異年齢交流による相互扶助の気持ちを育む**

⇒1日目のお楽しみ会、2日目のお菓子作りは、いずれも保護者から離れて子どもだけで活動を行った。年齢に関係なくグループを構成し、異年齢での交流を楽しんだ。1日目のお楽しみ会ではミニ運動会を開催した。グループごとに協力してボール運びやフープくぐりに取り組んだ。フープくぐりでは、身長差による難しさを感じる場面もあったが、「背の低い人からやろう」、「下からくぐった方がくぐりやすいよ」といった声を掛け合い、互いに工夫しながら挑戦する姿が見られた。2日目のお菓子作りでは、上級生が幼児を手伝ったり、下級生がわからないことを上級生に聞いたりするなど、自然に助け合う様子が見られた。年齢を越えた関わりの中で、思いやりや協力する力が育まれる機会となった。

**・ひとり親の悩み等を同じ境遇の親同士で対話する**

⇒子どもが保護者から離れて活動する時間を2日間とも設けた。子どもたちは、主体的に活動に取り組み、その間保護者同士が安心して過ごせる時間と空間を確保することができた。保護者同士の交流会では、日頃抱えている子育ての悩みや生活上の不安について語り合う様子が見られた。他の家庭の状況を聞くことで、新たな気づきや前向きな気持ちに繋がるような場面も見られた。事後アンケートにおいても、「子どもと離れて過ごす時間が貴重だった」「様々な人と話ができて良かった」といった声が寄せられた。子どもだけでなく、保護者にとっても心身をリフレッシュし、孤立感の軽減や、繋がり作りになる有意義な時間となった。

（3）　課題

・運営体制の強化

⇒参加者やスタッフのアンケートから「スタッフの人数が少なかった」との声が寄せられた。特に、活動前後の準備や片付けに想定以上の時間を要し、スタッフ一人ひとりの負担が大きくなっていた。また、参加者が昨年度より増加したことに伴い、活動中の見守りや安全認識においても、より手厚い体制が求められる状況であった。大きな事故やトラブルはなかったが、今後も安心・安全な事業運営を継続していくためには、余裕をもった人員配置が不可欠である。

・家族対象事業の充実

⇒現在、当所では家族対象の宿泊型の教育事業は年に1回のみの開催となっている。保護者の事後アンケートから「家族で参加できるキャンプを増やしてほしい」との声が複数寄せられた。金銭面や日々の忙しさから、宿泊を伴う体験が難しいようである。今後は、より多くの家庭が参加できる仕組みを検討する必要がある。一方で、回数を増やすためには、運営体制の強化等が課題となってくる。参加者の期待に応えながら、持続可能な形で事業を発展させていくための具体的な方策を検討していく。